３　教師海外研修の概要

(1)　スリランカについて

スリランカは、インド南西のインド洋にあって、ちょうど赤道と北回帰線の間に位置する熱帯の島国である。高山地帯で収穫されるセイロン・ティーは世界的にも有名で、また天然ゴムやサファイア、ルビーなどの宝石が産出されることでも知られる。

民族構成は、シンハラ人（シンハラ語、主に仏教徒）が７４％、タミル人（タミル語、主にヒンドゥー教徒）が１８％、スリランカ・ムーア人（イスラム教徒）が７％の構成となっている。

国の歴史は、紀元前４８３年、ヴィジャヤ王子が上陸し、シンハラ王朝を建設したのが国家の始まりであり、その後、１８０２年にイギリスが植民地とした。１９４８年、イギリス連邦内の自治領となり、１９７２年に国名をセイロンからスリランカ（意味：光り輝く島）に改称、イギリスから完全に独立した。

スリランカの概要

人口：約１，９５０万人（２００５年）
面積：６５，５２５ｋ㎡（北海道の約０．８倍）
首都：スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ
通貨：ルピー（１ルピー=1.25 円 ）
公用語：シンハラ語、タミル語、英語

１９９０年代に入り、ＬＴＴＥ（タミル・イーラム解放のトラ）をはじめ、武力によりタミル人の権利を勝ち取ろうとする多くの武装グループと政府側の抗争が激化している。日本は、明石元国連事務次長を「スリランカにおける平和構築及び復興・復旧担当の政府代表」に任命し、和平交渉会議を数回開催する等、スリランカ和平を支援しているところであるが、現在の国内情勢は厳しく予断を許さない状態である。その余波を受け、今回の研修期間中でも、コロンボ市内や近郊で爆破事件が起きたのには驚かされた。

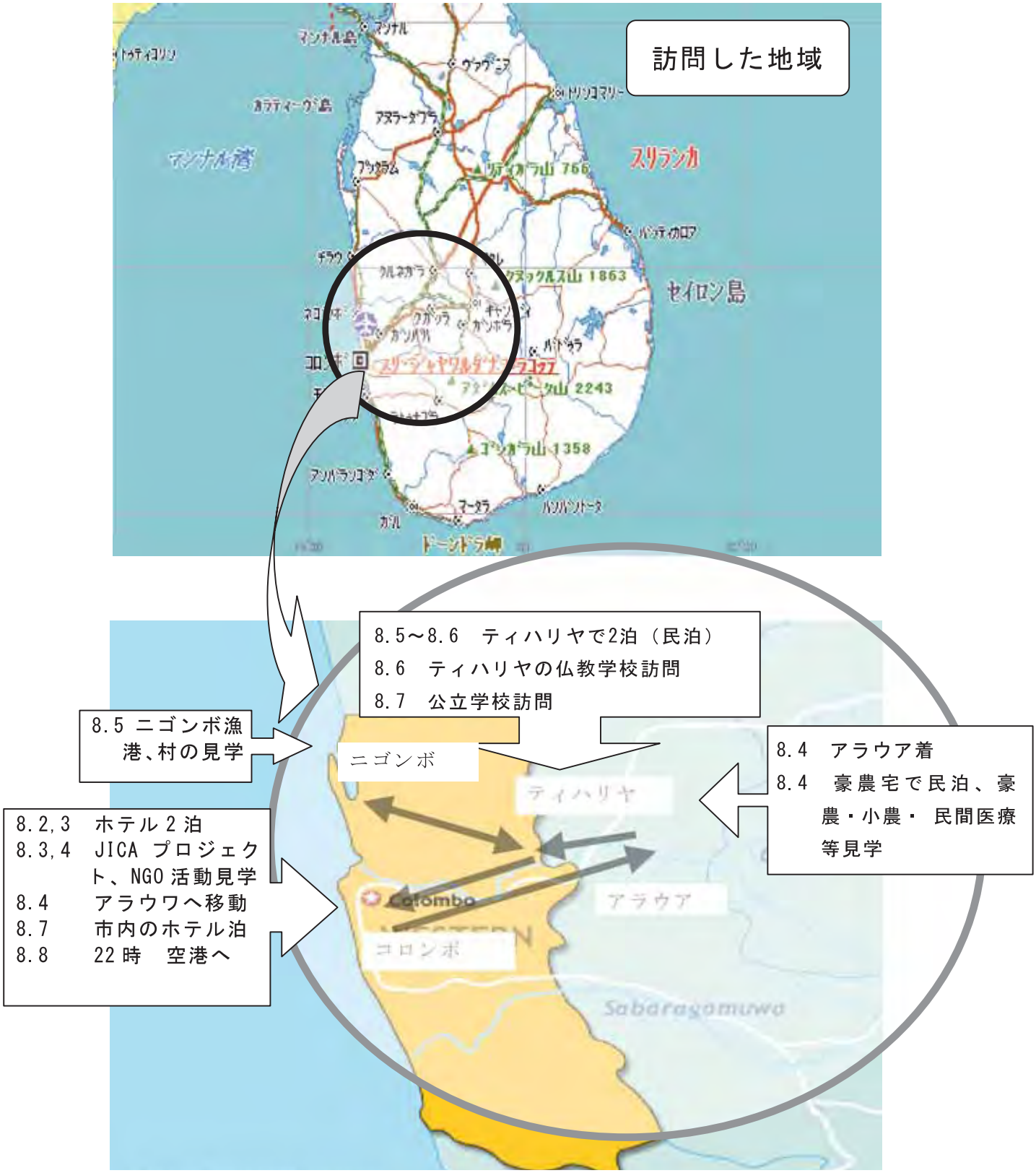
（爆発物を調べる軍の警官　キャンディ）

また、２００５（平成１７）年１２月２６日、インド洋スマトラ沖でＭ９．０という「スマトラ沖大地震及びインド洋津波」が発生した。

スリランカでも、沿岸部の３分の２強が甚大な被害を受け、多くの家屋や尊い人命が失われており、今なお町のあちこちに津波の爪跡が残されていた。

（津波で傾いた門柱　ニゴンボ）

(2)　訪問地域及び日程の概要図



(3) 日程及び内容、所感

８月３日（木）

訪問先（場所）	内容・所感など
スリランカ情報技術分野人材育成計画プロジェクト視察（3日はコロンボ市内）	・１９８７年、コロンボ大学にコンピュータソフトウェア技術者養成のためのコンピュータ独立学部設立。ソフト、機材面の支援や、技術協力プロジェクト、第三国現地国内研修を支援。ＩＴ教育の進捗状況を聴取。
シニア海外ボランティア（ＳＶ）の空手道指導視察（スポーツ省トーリントン体育館）	・シニア海外ボランティア（以下ＳＶ）近藤如巨さんの指導による空手道ナショナルチームの強化合宿を見学。 近藤さんは定年退職後、指導者に就任。選手達に空手道の練習を通じて武道と日本文化を伝授。
ＪＩＣＡスリランカ事務所訪問	・坂田事務所長から新政府開発援助(ＯＤＡ)大綱、スリランカへの援助計画の説明。
診療所「Transit Hostel For Disabled」活動視察	・ＮＧＯコロンボ・フレンドの活動視察。一般短期派遣隊員飛永浩一郎（理学療法士）の活動と加藤尚子ＳＶの活動を見学。地雷を踏む事故、交通事故、糖尿病等により足を切断した人の治療、義足製作、リハビリ指導、相談等を実施。

（コロンボ市内の様子）

（近藤 SV による空手道の指導）

（NGOコロンボ・フレンドにて）

（高級レストラン、カレー専門店）

８月４日（金）

ＳＶの活動視察 （コロンボ､モラトワ大学）	・モラトワ大学講師、田中勝利ＳＶ（陶芸）、宮尾眞矢子ＳＶ（家具のデザイン）、朝川雅子ＳＶ（ジュエリーデザイン）の活動を視察。陶芸家は、職業カーストで最下位にあたり受講者が少ない。３人は各１０人程度の生徒を熱心に指導。
村落開発普及員の活動視察 （デヒワラ･マウントラヴィニア市）	・青年海外協力隊（ＪＯＣＶ）村落開発普及員今村香代さんのスラム街の衛生向上支援活動場所を見学。汲み取り式トイレを５つ完成させ、環境改善されつつある。行政の支援も不十分。外国人の彼女が地道に積み上げた実績は大きい。
チャールス･アビクーンさん宅到着 （ボラヤワーナ）	・チャールス・アビクーン村長の家を訪問 ・チャールス村長は、PHD 協会の事業で日本の農業を学んだ大地主。ＰＨＤ協会の研修生で有機農業を学んだ同村民のナンダナさん、ランジットさん来訪。

（村落開発普及員今村香代さんと公衆トイレ）

（マウントラヴィニアの女性）

８月５日（土）

ナンダナさん宅訪問 （ボラヤワーナ）	・ナンダナさん宅訪問。村民の一般的な家。部屋や台所を見学。
公立診療所訪問 （ボラヤワーナ）	・チャールス村長宅の近くの公立診療所訪問。診療所の中は、薬や器具などが不足し不衛生な状態。宿泊費を寄付。
アジャンタさん宅訪問 （ティファリア）	・アジャンタさんはＰＨＤ協会で研修生として稲作、畜産、協同組合などを８８年に学ぶ。現在、重機を使い、農地開拓事業に従事する男性。
漁港見学 スマトラ沖地震津波の爪跡・魚市場視察 （ニゴンボ）	・ニゴンボでは、スマトラ沖地震で津波により死者１人、海岸の家屋には 1.3m の波が襲来。全壊家屋、床上浸水も多数。海岸に津波の爪跡が残る。 ・魚市場視察。保冷の技術や衛生管理が未熟で、魚にハエが群がり、天日干しの魚の強烈な臭いや腐敗臭が立ちこめる。
ドンボスコ･ドロップインセンター視察 （ニゴンボ）	・ニゴンボには、ポルトガル人が多く移住し、キリスト教徒が多い。近くの島へ漁に行き、帰ってこない親の子どもを養育する（学童保育）施設を訪問。ボランティアの教師２名から、施設の取組や指導内容を聴取。
アジャンタさん､ニハエルさん（夫）宅等で宿泊 （ティファリア）	・アジャンタさん宅で３名宿泊、ホテルで４名宿泊、アジャンタさんの義姉で近隣に住むジャンティー（弁護士）、ニハエル（建築家）夫妻の家で３名宿泊。

（チャールス村長宅で）

（診療所に寄付をする藤野さん）

８月６日（日）

ワーナラ寺院（日曜学校）訪問 （ティファリア）	・日曜日ごとに、地域の仏教徒の子どもたちが通う仏教学校の補習授業に参加。団員のシンハラ語による自己紹介後、日本の歌を披露。「大きな栗の木の下で」に振りをつけて全員で一緒に歌った後、団員が学年ごとに子どもたちと交流。
アーユルヴェーダ診療所視察	・診療所を開いているウイマールマウシンさんから、スリランカ古来の治療法アーユルヴェーダ診療室を見学。団員の何人かが受診。アーユルヴェーダは東洋医学の一種。マウシンさんの娘夫婦は音楽家。スリランカの音楽を鑑賞。
村医者のサラ・セマラティーナさんからの医療の話と民謡	・ティファリアの村医者、サラさんにスリランカの医療事情を聞く。スリランカには医者が少ない。医師は信頼を得ており、患者も多く裕福とのこと。スリランカの民謡を鑑賞。
ニーラカンティさん宅へ移動（ティファリア）	・ニーラカンティさんは、８７年にＰＨＤ協会で研修生として洋裁、手工芸、保健を学び、現在、スリランカの公立小中学校で英語・洋裁の教師として勤務する女性。夫は、材木業を営み裕福な家庭。

（日曜学校でおもてなしの儀式）

（巨岩の中？の寺院前でお祈り）

８月７日（月）

プアクワティア公立小中学校で授業実践 （ティファリア近郊カダワタ）	・ニーラカンティさんが勤める小中学校を訪問。加藤先生が空手の組み手を披露。「大きな栗の木の下で」の歌唱指導 ・団員による授業の実践。 ・運動場で、子どもたちが伝統的舞踊ペラヘラの象祭りを模した行列を披露。民族衣装に着替え、美しさに感動。
ケラニヤ大寺院 （ケラニヤ）	・仏教寺院見学。寺院にはだしで入り、仏像や史跡を見学。

（公立小中学校で　空手着の団員も）

（子どもたちに授業をする訪問団員）

（日本の国旗を持ってお出迎え）

（ペラヘラ祭りの踊りを教わる団員）

８月８日（火）

自由行動	・自由行動、観光、買い物など。 ・正午過ぎに、コロンボ市内で爆破事件が発生。安否確認。
ホテル出発	・２２時、ホテルをチェックアウト。
空港着	・搭乗手続き後、日本に向けて出発。

８月９日（水）

関西国際空港	全員無事帰国。

(4) 訪問により学んだこと

ア　日本の国際協力の実際

スリランカにおけるＪＩＣＡの活動を視察し、青年海外協力隊員やシニア・ボランティアの方々から直接お話を伺った。すべての指導者が、さまざまな面で日本とは違うスリランカの厳しい状況の中で、使命感を持ち、熱心に指導されている。

アジアにおいては、日本、台湾、韓国、シンガポールなどの国々に比べてインド、中国、マレーシア、インドネシア、タイ、スリランカ、パキスタン、バングラデシュ、ネパールなどの国々は開発途上国である。しかし、現在先進国である日本も、６０年前は開発援助を受ける側の「開発途上国」であった。当時、敗戦国日本に対して、世界銀行などが資金援助をし、アメリカをはじめ世界の国々から支援を受けた。日本は、その後、高度経済成長を経て復興を成し遂げ、現在に至っている。政府は、このような経緯を重視し、国際社会に対するいわゆる「恩返し」として、ＪＩＣＡの諸事業を積極的に行っている。